

# 総合理学研究所「年報'98」刊行にあたって

総合理学研究所所長 釜野徳明

総合理学研究所「年報'98」が刊行される運びとなりました。

研究所の運営もお蔭様で良い意味での定常状態になり、初期の混乱も克服されて諸作業も落ち着きの中で進められるようになりました。

さて、「年報'98」中には、98年度分についての事業報告すなわち共同研究の成果報告、講習会などの広報活動その他が記載されています。一覧して、それなりの活動成果があがったことが見て取れるのは喜ばしいことでもあります。特に、産官学の共同研究の割合が増加していることは、各研究員の時代の認識の高まりの反映であると思われます。

ご承知のとおり、研究所の目的は「共同研究の推進」と「広報活動」にあります。本年度から「地域社会との交流活動および共同研究」が入っております。研究所が推進する共同研究は、学科内あるいは学科間にまたがる形で複数の研究者がグループを組むだけでなく、必要に応じて学外あるいは海外からの研究者をも混えて、より広範なシステムで特定テーマの研究を進めるものであります。したがって、テーマも個々の研究者が扱うものより広域的、境界領域的なものになります。

現在のところ、共同研究推進の大きな柱として、

- (1) 海洋資源活用
- (2) 環境保全

の二つを掲げています。これらが研究所の当面のメインテーマであり、なるべくこれに沿ったかたちで共同研究を進めようとしていますが、前述したように新しい他領域の共同研究が多くなり、それらを(3) その他 として取り扱いました。やがて、独立した大きなテーマとして取り上げられることを願っています。

一方、研究所のもうひとつ別の目的は広報活動であり、これは研究所が学内と学外の学術交流の接点として機能しようとするものです。具体的には、講演会、講習会、あるいはフォーラムと言った各種の行事を開催して、学内においては研究者間の知的交流、そして対外的には大学と学外との交流を図り、さらには大学から地域に向けて知的サービスを行うという役割です。この場合の地域としては、平塚市、神奈川県、そして首都圏などを想定しています。また対象の人々としては、市や県下の住民、中・高・大学の教員、さらに首都圏の民間および公共研究機関の研究者等々です。

これまでもいろいろなテーマで講習会やセミナーを開催してまいりましたが、

- (I) 包装科学フォーラム
- (II) 機器分析講習会
- (III) 神奈川大学平塚シンポジウム (化学科と共催)
- (IV) 海洋生物科学シンポジウム

などが、ほぼ定例的に開かれるようになっていきます。講師は本学教員や全国の大学・研究機関の研究者などです。

これらの活動報告が本年報にまとめられています。ご覧いただきご意見等いただければ幸いです。総合理学研究所の発展のためにも、皆様方の積極的なご支援、ご協力をお願い申し上げます。